

Contents

- 1 ご挨拶
大学博物館等協議会 会長 寺林 優
- 2 藝大コレクション展 2020 藝大年代記
東京藝術大学大学美術館 准教授 熊澤 弘
- 4 静岡大学キャンパスミュージアムの新規オープンと“ウェルカムエリア”構想
静岡大学キャンパスミュージアム 館長 塚越 哲
- 6 未来に活かす博物館プロジェクト：「ハイブリッド・コミュニケーション」で触れ学ぶ博物館へ
名古屋大学博物館 研究員 梅村 綾子
- 9 令和2年度高松市文化奨励賞(顕彰部門)受賞
香川大学博物館 館長 寺林 優

ご挨拶

大学博物館等協議会 会長 寺林 優

2021年4月からの2年間、大学博物館等協議会の会長校を香川大学博物館が務めることになりました。大学博物館等協議会は、会員相互の緊密な連絡と協力によって博物館活動の進展に寄与し、当面する問題の解決を図っていくた



めに、大学附置の博物館や設置準備委員会、国立博物館等で創設された団体で、加盟館は現在41館です。年に一度介し、大学博物館等が抱える課題と取り組みについて協議・検討し、同時に開催される日本博物科学会では、教育、情報、研究、地域との連携、展示、マネジメントに係る事例紹介や成果発表が行われ、活発な議論がなされます。

今年度の大学博物館等協議会と第16回日本博物館学会は、2021年6月24日(木)・25日(金)に、琉球大学博物館(風樹館)で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、琉球大学での開催は中止となり、来年度に延期されました。会長校の香川大学博物館と前会長校の京都大学総合博物館ならびに他大学の有志による実行委員会を組織し、同日程でオンライン開催いたします。

コロナ禍においては、大規模な国公立の博物館・美術館をはじめとし、中小規模の博物館・美術館においても臨時休館や事前予約制の導入による入館者制限をしなければならなくなっています。大学博物館においても、同様の措置を講じている館が多くあります。香川大学博物館でも、開催していた特別展を会期中の2020年3月14日に早期終了し、その後は、臨時休館が1年近く続きました。その間も十分な感染対策を講じて、野外で小学生の親子や高等学校の生徒と教員を対象としたフィールド実習を例年と同様に実施することができたのは日常の喜びでした。

大学博物館は、大学での教育と研究の成果を学内外に公開することが目的であり、さらに学芸員養成課程における博物館実習などの機能を有する館も多くありますが、それらの役割をこれまで通りのやり方で果たすことが困難になっている館も生じています。

日常のなかで、持続可能な社会に向けて、発信し続ける博物館としての使命や役割を再考することが求められています。会長校としての責務を果たすのはもちろんですが、大学博物館等協議会の伝統を継続するだけでなく、さらなる発展と加盟館の協働・共創のハブとなるよう努める所存です。

藝大コレクション展 2020 藝大年代記

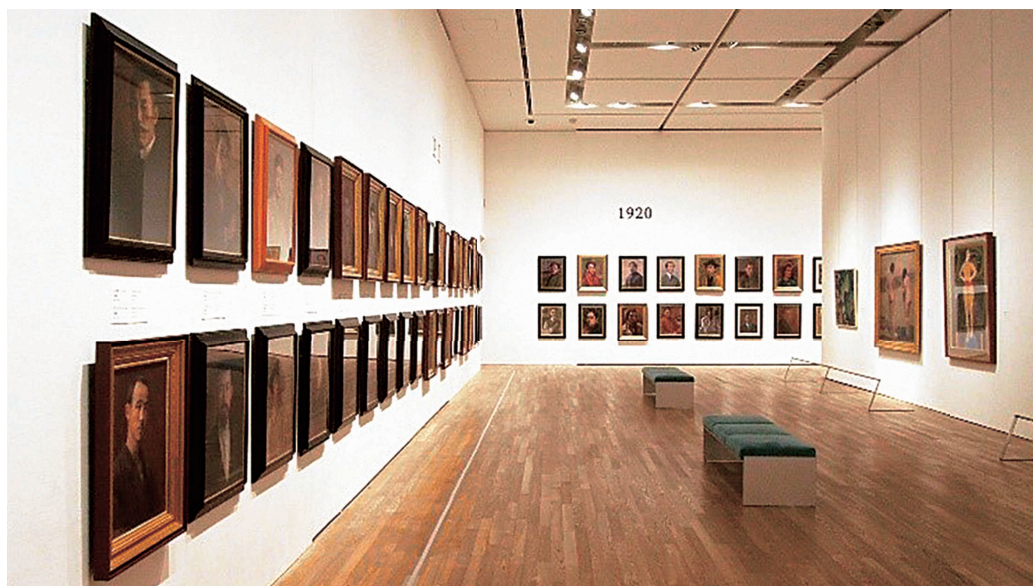
東京藝術大学大学美術館 准教授 熊澤 弘

東京藝術大学大学美術館（以下、大学美術館）の2020年度の展覧会事業、実習を含む学芸員課程教育をはじめとする様々な活動は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、大幅な変更を余儀なくされた。学芸員課程の講義はすべてオンラインの実施となり、毎夏の集中講義期間に実施される「美術館実習」も、実物を用いた対面実習がかわず、オンライン講義・実習への転換を余儀なくされた。また、展覧会事業についても学内各研究室主催の多くの展覧会は中止・延期となり、2020年度当初に開催される予定だった特別展「御即位記念特別展 雅楽の美」展も、展示準備完了後に

開催中止となり、一般の来場者を受け入れることがついに叶わなかった。ただ、このような過酷な状況にありながら、大学美術館の所蔵品の学術的・美術史的意義を再認識する企画も実施することができた。

2020年9月26日から10月25日に開催された「藝大コレクション展 2020 藝大年代記（クロニクル）」は、東京美術学校（美校）・東京藝術大学の学術資産である古美術の名品、歴代の卒業制作、そして自画像コレクションの収集過程に注目し、それらを「学史」の文脈から意義づける企画であった。

藝大コレクションには明確なキャラクターが二つある。一つは「参考美術品」として、もう一つ



「藝大年代記」展 展示風景

は「生徒作品」としての特徴である。

大学美術館の所蔵品には、《絵因果経》(国宝)、狩野芳崖《悲母観音》(重要文化財)等、日本美術史上重要な美術作品が多く含まれる。古美術を中心とするこれらの優品群はいずれも1889年の開学までにまとめて収集され、作品鑑賞や模写制作のための「参考美術品」、すなわち、教材・標本として活用されてきた。開学時にこれだけの古美術の優品がまとめて収集された事実は、伝統的な美術を重視する当時の美術教育の方針と一致している。

また、1896年に開設された西洋画科(現在の東京藝術大学美術学部絵画科油画)でも、科の教員である黒田清輝ら白馬会系の画家の作品とともに、西洋絵画の模写や、高橋由一《鮭》のような、黒田以前の洋画家の作品も参考品として収集されている。科としての教育方針が、収集品から浮かび上がってくるのである。

藝大コレクションのもう一つの特徴は、美校・藝大の教育成果としての「生徒作品」である。おもに卒業制作品と自画像で構成される歴代学生の作品は「学生制作品」という名称で所蔵品登録されており、美校最初の卒業生である横山大観《村童観猿翁》から平成・令和の卒業制作まで含み、その総件数は1万件を超える(令和3年4月現在)。これらは、学生の立場では在学中の最終成果発表であるとともに、学校からすれば、それまでの教育成果の記録であり、最も歴史の長い「日本美術教育史の定点観察」と言うことができる。

この卒業制作等の学生制作品とともに、卒業制作の一環でつくられる「自画像」コレクションも本学の重要な資産となっている。卒業時に自画像を制作して提出する慣習は、1896(明治29)年に設置された西洋画科から始まったとされる。最も古い卒業年の自画像である白滝幾之助、北蓮蔵(1898年卒)の2点を皮切りに、自画像は現在までほぼ継続的に収集され、その総件数は6000件を超える。

「藝大年代記」展は、第1部で教材となった名品・資料に、第2部では学生の作品が収蔵された年代に焦点を当て、学史という歴史のなかの資料・標本としての重要性を確認する機会となった。特に第2部では、美校の卒業制作、そして100点を超える自画像群を一堂に会し、明治末期から大正・昭和初期、そして太平洋戦争を挟んだ戦後の

自画像まで、年代に即して網羅的に展示することにより、美校開校から現在までの歴史的継続性を浮かび上がらせる展示となった。

コロナ禍のさなかに開かれた「藝大年代記」展は、美術品を「学内に残された歴史資料・標本」として扱い、それを網羅的に扱いながら、鑑賞者に美校・藝大史を追体験してもらう企画であった。第2章の最後には、1984年に藝大の体育館で開催された、ヨーゼフ・ボイスとの対話集会で使われた黒板、そして同年に藝大を卒業した宮島達男の卒業制作の《自画像》を並置して展示した。これらの展示は、美校・藝大史を、1980年代を含む日本近現代美術史と接続することを試みたものでもあった。

2021年度に入ってもコロナウィルス禍の影響は弱まらず、当館も緊急事態宣言により再び休館を余儀なくされている(2021年5月27日現在)。この環境のなかではあるが、藝大コレクションに対する調査・整理活動と展示は、館の基礎的な活動として維持し、その学術的価値を学内外に再認識してゆきたいと考えている。

追記

2020年8月、当館教授であり、大学博物館等協議会発足時から参加されていた薩摩雅登教授がお亡くなりになりました(1956-2020 享年63歳)。1999年の大学美術館本館の開館をはじめとする美術館運営、そして学芸員課程を含めた教育活動に心血を注がれた薩摩先生のご冥福を、心よりお祈り申し上げますとともに、彼の長きにわたる大学美術館への功績を讃えたいと思います。



美術館実習で指導される薩摩先生

静岡大学キャンパスミュージアムの新規オープンと“ウェルカムエリア”構想

静岡大学キャンパスミュージアム 館長 塚越 哲

キャンパスミュージアムの新規オープン

昨年度（2020年度）は、その前年度末にキャンパスミュージアムを含む理学部B棟の改修工事が終了し、一時保管先から資試料および物品が戻され、当初からその整理と新しい展示の構築に取り組んだ。また新規にホームページも立ち上げた。（<https://www.shizuoka.ac.jp/campusmuseum/>）

展示室をおよそ1.5倍に拡大して壁と床の色を暗色調で統一感を図り、また電源レールを天井に配して落射照明主体の配光とするなど、「アカデミックな異空間」をキャッチフレーズとして「ミュージアムらしさ」の演出に取り組んだ。また、エントランスにはコンセプト展示（写真1）を配して、見学者の気分を盛り上げる試みを行った。

主な展示内容は以下のようである：

- ・「死の灰」を含む第五福竜丸事件関連資料
- ・「種の起源・第6版」をはじめとする自然史の古書
- ・1970年代に採集されたアンデスの蝶の標本群
- ・高山植物、キャンパス内の植物
- ・古代杉、縄文杉の年輪標本
- ・岩石鉱物標本群
- ・海洋生物、古生物標本群
- ・インドネシアの民族楽器ガムラン
- ・キャンパスとその周辺から発掘された考古資料群
- ・静岡市内から発掘された石器時代の井戸枠
- ・黒曜石製矢じりの投擲実験の報告

等が陳列され、改修前と比較して大幅に充実させた（写真2）。

昨年度には、コロナ禍で活動が制限されながらも学生サークル「虫処（むしどころ）」の活動を支えつつ部員も展示にかかわるなどして、学生と一体となった大学博物館ならではの活動をすでに開始した。また夏休み期間には、理学部と教育部の博物館学芸員コースの科目「博物館実習」の場として初めて学内実習を実施し、5日間を1単位として学生10名が実習した。これはキャンパスミュージアム設立以来初の試みであると同時に、学生に対する実物教育を行って単位を出し、資格取得に結び付けるという大学博物館本来の重要な機能を果たし始めたことになる。

さらに昨年度には、やはりコロナ禍で課外活動

ができにくい状況下にあった静岡県内の複数の公立学校から、見学の申し入れがあった。まだオープン前の準備段階ではあったが、地域に根差した大学の在り方の一環として、これを受け入れることとした。生徒たち、そして引率の先生方の反応は予想以上で、オープン後の反響につながる手ごたえを感じた。

本年4月1日の新規オープンについては、本学事務局・研究協力課からマスコミ宛にプレリリースされ、（<https://www.shizuoka.ac.jp/news/detail.html?CN=7102>）、4月2日付の静岡新聞に記事が掲載された。

ウェルカムエリア構想

昨年度は、キャンパスミュージアムの活動をより発展させるため、学内の設備マスタープランに初めて応募した。申請した設備名は「東部キャンパス『ウェルカムエリア』の形成設備」とした。幸いにしてこの申請は今年度予算として採択されこととなった。

「ウェルカムエリア構想」の着想は、東部キャンパスにいわば「玄関と縁側」の機能をまとめて付加させようとするものである。本構想は、キャンパスミュージアムが主導的に行うプロジェクトではあるが、理学部ならびに大学文書資料室と3者共同で申請した。ミュージアムと大学文書資料室が入る理学部B棟のピロティ、できれば理学部A棟のピロティまでを一体化して、学生が憩い、来訪者が大学の雰囲気を感じ取れる場を形成したいと考えている（写真3）。

このウェルカムエリアに、静岡県くらし・環境部環境局自然保護課から、南アルプスの自然に関する展示をキャンパスミュージアムとの共催を希望する打診があった。地方自治体との連携は、静岡大学としても重要な課題であり、キャンパスミュージアムがその「芽」を育てる役割を果たせたら幸いである。

「ウェルカムエリア構想」を軸に、大学の発信力を強化し、地域へのアピールとアカデミックな貢献のために、静岡大学を様々な形で発展させる「場」になればと思う。

*本稿は「静岡大学キャンパスミュージアムニュース レターNo.22」の記事の内容を一部再録している。



写真 1. エントランスのコンセプト展示「森羅万象とヒト」



写真 2. 展示室全景

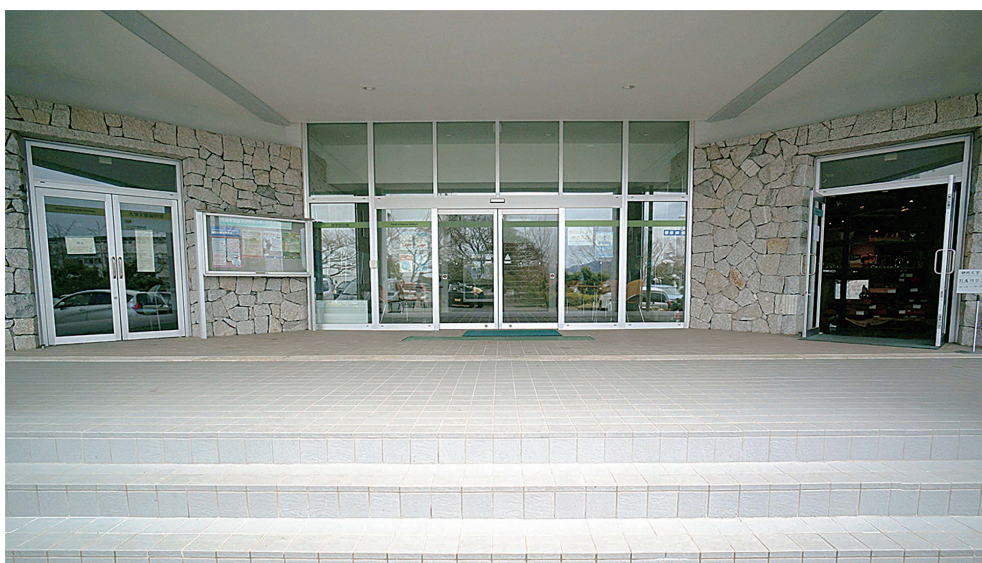


写真 3. キャンパスミュージアム（向かって右）、理学部 B 棟ピロティ（中央）、
大学史資料室（左）

未来に活かす博物館プロジェクト： 「ハイブリッド・コミュニケーション」 で触れ学ぶ博物館へ

名古屋大学博物館 研究員 梅村 綾子

名古屋大学博物館では、2018年より、体験型イベント「名大博物館探偵」をシリーズで開催している。博物館標本の学術的な見方を提供後、参加者に館内の探索、および自身の興味を発見してもらうという内容である。また、2019年は、博物館という施設が、学習者のエージェンシー（自ら考え、主体的に行動し、責任をもって社会変革を実現していく姿勢・意欲）の発揮を可能とする場であることを目指し、「名大生による子ども研究アドバイス会」を実施した。対話を通じた知の共有により、参加者・運営スタッフがともに学び合う機会となった他、参加者の研究成果が各種コンクールで入賞するなどの快挙とともに喜びの声が届いた。

これら対面式のイベントを2020年度も継続して行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、必然的にオンライン式の導入を検討することとなった。一方で、博物館の「本物」標本に触れ学ぶ喜びの提供は継続すべきである、とし、博物館活用の新展開のに向けた取り組みとして、オンライン式および対面式のハイブリッド型企画「標本に学ぼう！」の立案に至った。

本企画は、名古屋大学博物館スタッフによる全面的な協力体制により運営した。「タネ」および「カニ」の標本を各回のテーマとして設定し、それぞれを専門とする博物館スタッフが講師を担当した。また、テーマ毎に学生スタッフを募り、企画準備から当日運営の一連業務に責任をもって遂行できるようチーム体制を整え、将来を担う学生のための人材育成の場とした。

第1回「タネタネ大作戦」と第2回「カニカニ合戦」の共通プログラムの概要は、以下の通りである（図1）：

【対象】

小学3年生～大人（小学2年生以下も、本人の意欲があれば参加可）

定員10名（WEB申込制）

【イベントの流れ】

1. 参加者に、名古屋大学博物館の標本セット（図2）を郵送

標本セットには、標本、ハンディ顕微鏡、ルーペを同梱した。

2. 「オンラインワークショップ」の開催（オンラインにて（図3））

第1回（タネの回） 2021年1月30日

第2回（カニの回） 2021年2月20日

Zoom ミーティングを利用して、参加者に、標本の見方および研究の進め方についてオリエンテーションを行った。

3. 標本を使って、継続学習

その後、標本を継続して活用してもらい、興味に思ったことなどを調べてもらった。必要あれば、名古屋大学博物館ほか、地域の博物館、図書館、研究教育機関なども活用してもらった。

4. 「研究アドバイス会」の開催（オンラインもしくは対面にて（図4））

第1回（タネの回） 2021年2月13日

第2回（カニの回） 2021年3月6日

参加者が調査・研究を進める中で出てきた疑問・質問を、学生スタッフが中心となり、対話式に研究アドバイスを提案した。参加者からの質問は、予めアンケートにより回答してもらい、効率性も重視した。当日は、予め決定しておいた担当者による個別対応として、時間予約制とした。

5. 標本セットの返却、および調査／研究レポートの展示紹介

標本の返却の際、参加者に、調べた標本に関する研究レポートの提出も促した。これらレポートは、博物館コミュニティスペースで展示紹介していく。

参加者からは、郵送で送られてきた「標本を、直接手で触れることができる点が素晴らしい」との感想や、こうした「博物館の物が自宅にあるなんて、博士の研究室みたいだ」との喜びの声を聞くことができた。さらに、この一連のプログラムを受けることで、「生き物の世界の面白さを知ることができたと思う」という感想や「普段研究の

話など中々できないが、じっくりと時間をとって研究者や大学院生の方とお話ができ、大変刺激を受けた」との感想を得ることができた。学生スタッフからも、「今回標本について多くを学ぶことで、自分の専門や興味と重ね合わせて見ることができた」と研究への意欲を聞くことができた。

なお、当「研究アドバイス会」は、当初コロナ禍の対策として、対面もしくはオンライン開催としたが、県外（東京、静岡）からの参加もあったため、オンラインもしくは対面の選択肢があったことは有効だったように思われる。

以上のように、「標本に学ぼう！」をオンライン式および対面式のハイブリッドで開催したことで、名古屋大学博物館の新方式・体験型イベント

としての第一歩を踏み出すことができた。これを実績としつつ、さらに、博物館の展示品や収蔵品もハイブリッド式に学び親しんでもらえないか、と検討を重ね、「ハイブリッド型バーチャル博物館」のモデルを立ち上げることとした。まずは、名古屋大学博物館のホームページを、コミュニケーションツールのトレンドに合わせ、編集可能であるように整備し、「おうちで名大博物館（図5）」のページを新設した。名古屋大学博物館の収蔵品についてのエッセイ、動画、クラフトなど、親しみやすいコンテンツを準備し、随時発信している。今後もさらなる地域連携を展開するため、本事業に改善を重ねながら、継続して新たなテーマでも取り組んでいきたい。



図 1. イベントのチラシ



図2. タネ標本セットの例



図3. オンラインワークショップの様子
(2021年1月30日開催)



図4. 研究アドバイスの様子 (2021年3月6日開催)



図5. 名古屋大学博物館 HP 内「おうちで名大博物館」より一部抜粋

令和2年度高松市文化奨励賞（顕彰部門）受賞

香川大学博物館 館長 寺林 優

香川大学博物館の寺林優館長（創造工学部教授）が、令和2年度高松市文化奨励賞（顕彰部門）を受賞した。2020年10月14日（水）に高松市防災合同庁舎で記者発表があり、贈呈式は、11月2日（月）に高松市役所13階大会議室で開催された。

高松市文化奨励賞は、同市における文化の振興に貢献し、将来においてもさらにその活躍が期待される者を奨励することを目的に、昭和53年度に制定され、令和2度で43回目である。平成27年度からは、若手の活動にも着目した表彰制度に再編され、「顕彰部門」と「新人部門」の2部門で表彰することとなり、令和元年度までに90名が受賞され、その後も各分野の第一線で活躍されている。令和2年度は、顕彰部門で寺林優館長の他1名が受賞した。

受賞理由は、以下のとおりである。2006年から、四国初の大学博物館である香川大学博物館の設置・開館・運営において、中心的な役割を果た

してきた。同館は、その所在地である高松市を中心に、地域密着型の博物館として、毎年2回の企画展および不定期の特別展を計38回開催し、関連行事としてミュージアム・レクチャー、特別講演会、トークイベント等を多数開催してきた。自然科学系の展示ならびに活動は、科学技術分野の文部科学大臣表彰（理解増進部門）を2度も受賞しているように極めて高く評価されている。

文化芸術分野では、文学、音楽、美術、写真、映像、書道、演劇、舞踊、建築、デザインその他の芸術、生活文化ならびに文化財、伝統文化などの文化芸術などに係る企画展および特別展をこれまでに20回開催し、地域の方々に文化芸術に触れる機会を提供してきた。

これらの活動は、受賞者のリーダーシップのもとで、香川大学内だけでなく、学外の機関・団体・個人との連携および協同が実現した成果であり、今後もその継続と発展が期待できる。

また、高松市こども未来館および高松市歴史資料館等の運営にも多大な貢献をしている。

*本稿は「香川大学博物館13年間の歩み」の内容を一部再録している。



贈呈式（右から2人目が寺林）



寛善行香川大学長に報告（右が寺林）

大学博物館等協議会加盟館の活動状況

東京藝術大学大学美術館

渡辺省亭 — 欧米を魅了した花鳥画 —

2021 年 3 月 27 日（土）～ 5 月 23 日（日）

※ 4 月 25 日（日）から臨時休館

東京藝術大学大学美術館 本館

美しさの新機軸～日本画・彫刻 過去から未来へ～

公益財団法人芳泉文化財団 第五回文化財保存学

日本画・彫刻研究発表展

同時開催：模写の近代 模写の現代 公益財団法人

芳泉文化財団 10 周年記念特別展

2021 年 6 月 5 日（土）～ 6 月 13 日（日）

東京藝術大学大学美術館 本館

「新しい成長」の提起 ポストコロナ社会を創造
するアートプロジェクト

2021 年 6 月 8 日（火）～ 6 月 27 日（日）

東京藝術大学大学美術館 本館

SDGs × ARTs 東京藝大 I LOVE YOU プロ
ジェクト～藝術は人を愛する～

2021 年 7 月 22 日（木・祝）～ 8 月 31 日（火）

東京藝術大学大学美術館 本館

藝大コレクション展 2021 I 期 雅楽特集を中
心に

2021 年 7 月 22 日（木・祝）～ 8 月 22 日（日）

東京藝術大学大学美術館 本館

藝大コレクション展 2021 II 期 東京美術学校
の図案 — 大戦前の卒業制作を中心に

2021 年 8 月 31 日（火）～ 9 月 26 日（日）

東京藝術大学大学美術館 本館

再演 — ^{インストラクション}指示と^{プロトコル}その手順

2021 年 8 月 31 日（火）～ 9 月 26 日（日）

東京藝術大学大学美術館 本館

ミロク — 終わりの彼方 弥勒の世界 —

2021 年 9 月 11 日（土）～ 10 月 10 日（日）

東京藝術大学大学美術館 本館

上原利丸退任展 — 本友禅染の多様性と独自性 —

2021 年 10 月 28 日（木）～ 11 月 7 日（日）

東京藝術大学大学美術館 本館

コミテコルペールアワード 2021

2021 年 11 月 3 日（水・祝）～ 11 月 23 日（火・祝）

東京藝術大学大学美術館 本館

リサーチプロジェクト展〈仮〉

2021 年 11 月 16 日（火）～ 11 月 28 日（日）

東京藝術大学大学美術館 本館

東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展

2021 年 12 月 10 日頃 ～ 12 月 25 日頃（未定）

東京藝術大学大学美術館 本館

東京藝術大学卒業・修了作品展

2022 年 1 月 20 日頃 ～ 2 月 5 日頃（未定）

東京藝術大学大学美術館 本館

.....

Welcome, Stranger, to this Place

2021 年 3 月 20 日（土・祝）～ 4 月 7 日（水）

東京藝術大学大学美術館 陳列館

I LOVE YOU プロジェクト 2021 展覧会「居
場所はどこにある？」

2021 年 6 月 1 日（火）～ 6 月 20 日（日）〈仮〉

東京藝術大学大学美術館 陳列館

日本画第二研究室 素描展

2021 年 6 月 23 日（水）～ 7 月 5 日（月）

東京藝術大学大学美術館 陳列館

工芸総合演習 2021「視つめるかたち—素材から表現へ—」

2021 年 7 月 8 日（木）～ 7 月 15 日（木）〈仮〉
東京藝術大学大学美術館 陳列館

「つながる糸 ひろがる布」テキスタイル三美大交流展

2021 年 7 月 22 日（木）～ 7 月 30 日（金）
東京藝術大学大学美術館 陳列館

うるしのかたち展 2021

2021 年 8 月 17 日（火）～ 8 月 29 日（日）
東京藝術大学大学美術館 陳列館

—研展—日本画第一研究室発表展—

2021 年 9 月 3 日（金）～ 9 月 18 日（土）
東京藝術大学大学美術館 陳列館

藝大ファクトリーラボ成果発表展〈仮〉

2021 年 9 月 22 日（水）～ 10 月 4 日（月）
東京藝術大学大学美術館 陳列館

「信貴山縁起絵巻」模写事業完成披露展

2021 年 10 月 6 日（水）～ 10 月 15 日（金）予定
東京藝術大学大学美術館 陳列館

保存日本画創作発表展

2021 年 10 月 6 日（水）～ 10 月 15 日（金）予定
東京藝術大学大学美術館 陳列館

Which Mirror Do You Want to Lick? 〈仮〉

2021 年 10 月 16 日（土）～ 11 月 8 日（月）予定
東京藝術大学大学美術館 陳列館

油画第二研究室発表展

2021 年 11 月 9 日（火）～ 11 月 30 日（火）予定
東京藝術大学大学美術館 陳列館、正木記念館

共同事業 アートプロジェクト展

2021 年 12 月 21 日（火）～ 2022 年 1 月 24 日（月）
予定
東京藝術大学大学美術館 陳列館

国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻企画展

2022 年 3 月 12 日（土）～ 4 月 13 日（水）予定
東京藝術大学大学美術館 陳列館

.....

「高村家資料の調査研究—光雲・光太郎・豊周の作品制作—」成果展覧会〈仮〉

2021 年 12 月 10 日（金）～ 12 月 19 日（日）
東京藝術大学大学美術館 正木記念館

名古屋大学博物館

結晶展

2021 年 4 月 27 日（火）～ 11 月 6 日（土）
名古屋大学博物館

木彫り熊展

2021 年 11 月 30 日（火）～ 2 月 26 日（土）
名古屋大学博物館

香川大学博物館

令和 3 年度全国大学書道学会会員書作展

2021 年 9 月 18 日（土）～ 10 月 16 日（土）
香川大学博物館 展示室

特別展「メタセコイア（仮）」

2022 年 1 月 6 日（木）～ 2 月 12 日（土）予定
香川大学博物館 展示室

宮崎大学農学部附属農業博物館

令和 3 年度企画展示「知ってほしい！農学部での学び」

2021 年 4 月 2 日（金）～ 2022 年 3 月 31 日（木）
宮崎大学農学部附属農業博物館 1 階展示室

各施設の開館に際して

新型コロナウイルス感染症への対応に関し、10都道府県で緊急事態宣言、8県でまんえん防止等重点措置が実施されています（2021年6月5日現在）。新型コロナワクチンの接種が進められていますが、ウイルスの脅威が完全に無くなったわけではなく、依然として油断できない状況であるため、各施設の開館に際しては、感染予防に対して最大限の対策を実施することが不可欠と思われます。

以下は、施設の開館に際して新型コロナウイルス感染拡大予防対策の検討に有用な情報や実施すべき基本的事項をまとめたウェブサイトへのリンク集です。博物館利用者と職員の安全を確保するための対策立案の参考になれば幸いです。情報は更新され続けていますので、常に最新の情報を確認するようにしてください。

・新型コロナウイルス対応（国の方針等）

<https://corona.go.jp>

・新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html

・新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について（文化庁）

https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/sonota_oshirase/20200206.html

・新型コロナウイルス感染症予防にかかる美術館博物館等の作品消毒の相談窓口について（文化庁）

https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/sonota_oshirase/pdf/202004242000_01.pdf

・感染拡大の予防と研究活動の両立に向けたガイドライン（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/content/20201007_mxt_kouhou01_mext_00028_01.pdf

・ICOM（国際博物館会議）による美術館・博物館の再開のための基本対策

<https://icom.museum/en/news/museums-and-end-of-lockdown-ensuring-the-safety-of-the-public-and-staff/>

・博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン（日本博物館協会）

<https://www.j-muse.or.jp/02program/pdf/coronaguide0000.pdf>